アジア文化学科 3 年

中国南開大学語学研修　レポート

私は今回の語学研修参加者の中で唯一の第 3 学年の参加者だったが、とても楽しく過ごすことが出来た。それは、学年・年齢を問わず私に接してきてくれた、人懐こく可愛らしく頼もしい 1、2 年生たちのお陰に他ならない。

研修のスケジュールは大概に、前半は南開大学で中国語の授業、後半は観光である。前半の授業は現地の先生による中国語を使った中国語の授業になる。それを聞いただけでは構えるかもしれないが、英語も少し混ぜて説明を行ってくれるので、思うより分かりやすくなっているのではないだろうか。観光も本当に有名な、教科書に出てくるような場所もたくさん行かせていただき、体験もさせていただいた。本当に良い機会だったと思う。

一つ言えることは、もし今回の参加者たちにまだお金と身体の余裕のある者がいれば、次の機会も是非参加してみてほしい、という事である。参加者の中には今回ただただ必死にしがみついてきた子もいるかもしれないが、3 年にもなると語力という意味では余裕が出てくる。たとえ今回と全く同じスケジュールになったとしても、きっと、今回とは全く違う視点や景色も目にできるはずだ。

中国の道路の様子。バイクや自転車が構わず車と一緒に走る姿は、とてもひやひやするものだった。

アジア文化学科 3 年

中国南開大学語学研修　レポート

授業する教室の写真である。授業の時間自体はとても長いが、実際は 1 時間ごとに先生が 10 分間ほどの休憩時間を取ってくれる。

アジア文化学科 2 年

南開大学研修

研修期間：8 月 8 日～8 月 28 日
研修内容：太極拳、中国語講義、北京見学、文化遺産巡り、観光

私が今回の研修に参加しようと思った理由は、一番は中国語の勉強ですが、なかなか機会のない中国の大学で授業が受けられるということでした。

まず、筑紫女学園大学と学校の広さから異なり、生徒数、建物の数、様々な国からの留学生がいて圧倒されました。現地に着いた翌日からクラス分けテストがあり午後からすぐに授業が始まりました。初めの 1 週間は午前午後と授業ばかりでしたが、見学をしに北京の天安門や遺跡、故宮博物院などに行きました。晩御飯では、北京ダッグなど有名な北京のご飯が出てきてとても美味しかったです。この日は移動が歩きとバスで暑い中とても長い距離を歩いたので動きやすくて涼しい格好をするのがオススメです。

次に、大学の寮に寝泊りするのですが、いつも朝食、昼食、夜食がとても多くて食べきれないほど出ていました。そして、種類も様々で食べ物に不自由はしませんでした。しかし、部屋のシャワーがとても弱かったり洗濯機が 1 フロアに 1 つしかなかったりしたことが少し不便に感じました。最後の試験と終業式を終えて、やっと解放された感じがして、なぜなら毎朝早くから太極拳をやっていたからです。日本では、不規則な生活をしていたので規則正しい生活を送れたと共に太極拳を本場の講師にならえてよかったです。スケジュールが最後の 1 週間が観光になっていてとても楽しみにしていたのですが、歩く距離が長くて休憩時間も少なかったのですごい体力を使いました。しかしパンダや夜の上海を観光できて最高の思い出になりました。

最後に、今回の研修で私は改めて自分を見つめ直すことができ、みんなと同じ境遇で生活することで刺激ももらえ、自分の勉強不足にも気づけてさらに学ぶ意欲が上がりました。これからの大学生活淡々と過ごして講義を受けるのではなく、自分のために将来のために中国語の力を身につけたいです。次またこのような機会があったら是非他の人にも参加して欲しいです。

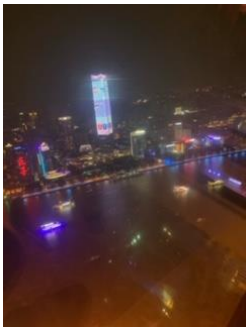
中国研修レポート

アジア文化学科 2年

8/8～28日の三週間、中国研修で北京、天津、成都、上海に行きました。初めての海外はとても新鮮で楽しい反面、とても不安でした。大学は日本と違い、すべて回るだけで約一時間使うくらい広い校内でした。校内には、普通の学校にあるもの以外で教室棟のほかに留学生用の寮や生徒用の寮、先生や先生の家族の寮、スーパーやカフェなどがあり、一つの市と変わらなく驚きました。講義も普段だと日本語で説明をしてもらえますが、当たり前に中国語しか話されず、最初は聞き取るのに時間がかかりましたが、日を重ねていくうちに聞き取れるようになりました。また、大学の外は日本とは違い、常に多くの人であふれていました。建物も白色ベースのものが多くマンションがずらりと並ぶ光景がたくさんありました。観光地には、より多くの人であふれにぎわっていました。土地の規模はとても広大で、一つ一つ回るのに、夏だからということもありますが体力が減るのが早かったです。

自分が一番記憶に残っているのが、中国雑技団です。雑技は、自分たちがマネすることは不可能だとわかるくらいすごい技ばかりで見ている側がはらはらするものばかりでした。ですが、演技をされている方の技が決まった時はとても達成感のある顔をしていてものすごい練習を重ねていることが見れました。次に中国に行ける機会があればまた見に行きたいと思いました。

中国は、隣国ですが文化が違い戸惑うことも多かったですが、初めて見る赤ちゃんパンダや上海でのきれいな夜景を見ることができたのはとても研修に参加できてよかったと思いました。また、地元の方と中国語を使い話す機会があったので、自分がどれだけ中国語を使えるかが分かりました。この体験を活かしてこれからの語学勉強に生かしていきたいと思いました。



アジア文化学科 2 年

中国研修で生活してみて

私は今回天津南開大学夏期語学研修に参加してたくさんのことを学びました。研修では中国語の勉強はもちろん、中国の歴史について学んだり、その歴史の建物を見に行ったりしました。歴史の建物のことは調べたらわかることなので私は中国で生活してみて感じたことを書きます。

まず生活するうえでとても大切な水のことです。中国の水は硬水なので飲むことができません。だから飲む水は水を買うか水道水を沸かして飲むという方法です。だからスーパーなどで買える水はとても安く買うことができます。日本円でいうと 50 円以内で売ってあります。しかし、シャワーなどの水も硬水で、日本の水とは違うので髪の毛などはとても傷んでしまいました。水に関係しているご飯についてです。私たちはたくさんの場所でご飯を食べさせていただきました。中国のご飯も日本と同じく場所によって味が異なっていました。私たちもたくさんの場所で食事をしたのですが、場所によって料理の辛さが全然違いました。日本とは調味料などもちがうから同じような料理でも味はもちろん違うのですが、中国の中でも調味料や料理方法などが変わるので味がちがいます。同じ料理でも辛さがことなったり、ご飯が辛いと感じたりしました。私は中国の料理が辛いと思ってなかったので驚きました。日本の辛さとは違った独特の辛さで私は苦手だとかんじたものもありました。

次に、交通のことです。中国ではものすごく車の交通量が多いです。また、バイクの交通量もとても多いのですが、ヘルメットをかぶらないことにとても驚きました。そして、道路があまり整備されっていないためとても凸凹しています。私が中国の運転手の人達を見て思ったことは、中国の運転する人達は自分優先という考えの人が多いなと感じました。譲るという考えがあまりないので、とても危ないなと感じる場面がとても多かったです。クラクションの音がいろんな場所から聞こえていました。歩行者が渡ろうとしていても車が止まってくれなかったりするので、強引に車を停めて歩いている人がとても多かったです。バイクなども多いから、車をすり抜けたりしていてとても危なかったです。交通に関してはとても危険だなと感じました。

最後に物売りについてです。中国では様々な道でいろんなものが売られています。しかし、とても高く売られているものや本当はしてはいけないことをしている人も多いです。私が一番驚いたことは万里の長城で上り下りしながらものを売っている人がいたことです。また、病気の人を連れて治療費を集めている老人がたくさんいることです。外国人には特に近寄ってきてしつこく話しかけてきたりします。気持ちはわかりますが、とても危険なので中国に行く際は気をつけてください。

私は中国研修で語学はもちろん、中国の日常生活に関することについても学ぶことができました。中国で生活してみないとこのような経験はできなかったと思うので貴重な経験ができたなと思いました。

アジア文化学科 2年　　「充実した中国研修について」

私は今回、四つの中国の土地を訪れた。そして、天津にある南開大学で中国語を集中的に学んだり、変面や雑技を鑑賞したり、行くそれぞれの土地で本場の中国料理を食べるなどと、充実した三週間を送った。その中でも特に印象に残っていることが四つある。

まず、一つめは「空気」についてである。日本でよく中国は、PM2.5の白い空気で汚染され、マスクが欠かせないと報道されている。そのため、私はマスクを多く持っていった。しかし、いざ行くと白い空気はなく、日本と変わらない環境でマスクも必要としなかった。このことから、私は改めて実際に訪れ、確かめることの大切さを学んだ。

二つめは、カルチャーショックを受けたことである。それは、店員の接客態度で感じた。上海の銀座と言われる場所を訪れた時のことだ。私は一度、その店員の接客を受け、一旦、別の店でお土産を買い、戻ってきた。その際、「なぜ、自分のお店でお土産を買わなかったのか。」とその店員が問いかけてきたのだ。店員は怒っているわけではなく、表情は明るく、フレンドリーな感じで私に問いかけたつもりだと思う。しかし、私にとっては、大きな声で外国語を言われ、その上、日本では店員が初対面の客に対してそうはっきりと言わないため、文化の違いとは理解していても「怖い。」と感じた。また、研修最終日、空港で食品類のお土産を店頭に並べている店員が床に商品の袋をばら撒き、それらを足で軽く蹴って移動させている姿を目撃し、衝撃を受けた。私は、これらの日本では味わえない接客態度から文化の差を身をもって感じた。

三つめは、パンダの赤ちゃんと東方明珠電視塔から見た夜景に、心の底から感動したことである。

パンダの赤ちゃんは、成都のパンダ基地で見た。私は日本でライオンの赤ちゃんと記念撮影したことがあるため、実物の動物の赤ちゃんの可愛さを知っているつもりでいた。しかし、今回、室内で管理され、まだ皮膚もピンクの赤ちゃんパンダたちを見た瞬間、初めて命の尊さを強く感じ、とても感動した。

東方明珠電視塔は夜登った。私は最初、日本のタワーと同じような銀色の世界が広がっているのだろうと思っていた。しかし、いざ登ってみると、あたりは金色に光り輝いている街並みに囲まれていた。私はこのような夜景を想像していなかったため、驚きと共に、こんなに美しい夜景が世界にはあるのかと、とても感動した。

四つめは、本場で北京ダックを食べたことである。私はこれまでに、北京ダックを食べたことがなかった。いざ、食べてみると皮はパリッとジューシーで、肉はさっぱりとしていてとても美味しかった。また、薄く焼いた餅にキュウリとネギ、北京ダック、甘味噌を包んで食べることも学んだ。私はまた北京ダックを食べたいと思った。

私は今回の様々な研修プログラムの中で、語学はもちろん、実際に行かなければ学べないことを多く経験することが出来た。今回学んだことを、より広い視野を持って海外を見ることに繋げたいと思う。

アジア文化学科 2 年

夏期南開研修を終えて

大学に入学してから二回目の夏休み。親と相談して、大学でプログラムされている南開研修へ参加することが決まった。約三週間弱の短期留学のようなもので、私は主に中国語の語学向上と外国の文化をより深く知ることが参加の動機だった。はじめに、とっても楽しく過ごすことができたというのが率直な感想だ。私は今までに一度も一週間以上も外国で過ごしたことがなく、終始ドキドキが止まらなかった。その中でも私が研修に行ってよかったなあと強く思う理由が主に三つある。

まず一つ目は、中国語の授業がとても分かりやすく、中身が詰まっているということだ。授業をしてくださったのは中国人の先生で、日本語は一切使わず、中国語と英語で会話していたのだが、要点をつかんだ授業でとても分かりやすかった。特に筑紫女学園大学での私たちの中国語の授業では、普段あまりリスニングの練習をしないので、私は聞き取りを苦手に感じていたのだが、南開での授業は積極的に聞き取りの練習を行っていたので、参加する前と比べると少しは聞き取れるようになった気がする。

二つ目は、現地の人たちが皆優しかったということだ。勝手なイメージだが、参加する前は中国人観光客が日本で爆買いしたり、大きな声で喋ったりしている場面を何度か目にしたことがあったので、なんとなく気性が荒いイメージがあった。しかし実際に会話すると全くそんなことはなく、わたしたちに向けての気遣いが厚く、会話するときも笑顔でとても優しかった。特に南開大学の学生との交流会では、たくさんの学生がパーティーに足を運んでくれて、わたしたちに強い興味を持ってくれたので嬉しかった。仲良くなって SNS を交換できたので、今後も交流出来たらいいなと考えている。

三つ目は、中国のいろいろなところに行けたことだ。三週間弱の研修で、上海、成都、四川、南開、北京などを廻り、各地の有名な食べ物や観光地に触れることができたのでとても充実しており、盛りだくさんの内容となっていた。特に万里の長城に上ったことは一生の思い出になるだろう。

以上の三つが、私が南開研修に参加してよかったと思う理由だ。他にも、ここに書ききれないほどたくさんの濃い思い出ができた。今回の研修で得たものを糧に、これからも中国語の勉強を頑張ろうと思う。

南開大学研修
アジア文化学科 2年

私は8月17日から28日までの3週間、中国の南開大学に研修に行った。この研修を志望した理由は、高校のときから中国に興味があり、中国語をもっと身近に感じたいと思い参加した。
3週間は思った以上に短い期間であった。初めて行く中国に期待を膨らませ福岡を出発した。着いた瞬間、高校の頃から行きたかった中国に行けることができたことと、中国の空気を感じることができ感動した。
感動をしたのも束の間、翌朝からは南開大学の研修入学式・中国語のテスト・クラス分け・授業、と聞き慣れない中国語に苦戦していた。だが慣れないからと言って研修に来た以上は何かを得てから帰国すると目標を持っていたので、授業にも必ず参加をした。
授業では、中国語メインでの時々英語での会話の中スタート。授業内容は大学では学んでいない単語や文法が当然のように出てきた。友達と顔を合わせながら「この意味分かる？」と互いに何度も言い合い、ほぼ口癖のようになっていた。授業にも慣れた頃には、あんなに苦戦した数字の読み方にも慣れ、聴き取れるようになっていた。
授業以外にも、大学内外を見学した。大学内にはコンビニや、一般の方が住んでるアパートなども何棟か建っており、かなり広い敷地面積があった。
天津だけでなく、北京・四川・上海なの多くの都市にも行った。どこの都市も人の量が多かった。
勉強だけでなく、中国国内を見回ることができてとても充実した研究だった。

20 日間の中国研修について

アジア文化学科 2 年

私は今回の中国研修で初めて中国へ行った。出発日に乗り換えで降りた大連の空港のトイレは和式しか無かったり、なぜかウォーターサーバーの紙コップは円錐型だったりして早々に驚いたのを覚えている。
夜遅くに寮に着いて、想像以上に古くて不便なことに先が不安になった。次の日簡単なクラス分けをして授業は中国語と補足程度の英語で行われた。最初は英語を頼りに内容を理解していたが、日程終盤になると先生の中国語だけでも大体は分かるようになったので、現地に身を置くことは大事だと思った。
研修ではただの旅行だと行かない、若しくは行けない範囲で移動してたくさんの場所に行くことが出来た。ただ、どこに行ってもほとんど自由行動が出来ず、大学の授業で覚えた会話は“聞く”機会はあっても“話す”機会が少なかったと感じた。その代わりに一緒に研修に行った子達と過ごす時間は長かったので、学年関係なく仲良くなれた。

中国人は思ったより優しい人が多かった。学内にあるコンビニの店員でも挨拶したらニコニコして返してくれた。外国のお店の店員は冷たい対応なのが普通だと思っていたので、それだけでも中国を好きになる理由になる。食堂の配膳係のお姉さんたちも、私たちの要望を嫌な顔せず聞いてくれたり日本語を覚えてくれたりした。観光地を回っている時私たちに話しかけてくれて、こちらの拙い中国語も理解してくれるような人もいた。
もちろん全員がそうなわけではないし色々なマナーの悪さを目の当たりにしたが、それでも根は良い人なのではないかと思う。

この中国研修ではたくさん不満や不便もあったけど、一度も日本に帰りたいとは思わなかったほど楽しかった。帰ってきて数か月経った今でも久しぶりに毎朝食べていた料理を食べたいなとか写真を見返して、もう一度戻りたいなと思う。なので少しでも興味があって、行くか迷っているなら行って損はないので、チャレンジしてほしい。

研修を終えて

英語学科 1 年

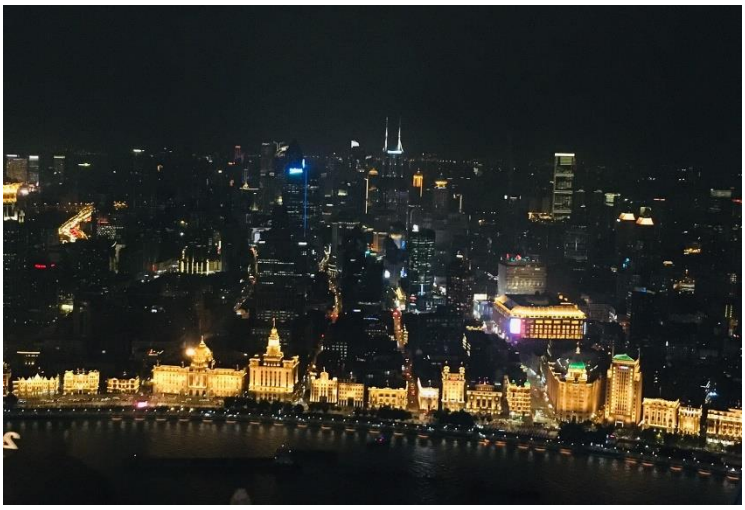
今回約 1 か月間の南開大学夏期語学研修に参加しました。私は一人だけ英語学科であまり中国語の授業を受けていなかったのでこの研修についていけるか不安だったけれど、めったにない機会だと思い参加を決めました。

南開大学での授業はもちろん中国語で、分からない所は英語も混ぜて話してくださったので日本語を使わなくてもとても分かりやすかったです。伝言ゲームやペアで会話練習など、普段の授業よりスピーキングが多く、私は発音が苦手だったので何度も間違えたけれど、正しい発音になるまで先生が何度も指導してくださいました。

授業がない日は万里の長城に登ったり故宮博物館に行ったりして、中国の名物や伝統文化に触れることができました。研修後半に行った成都のパンダ基地にはなかなか見ることができない赤ちゃんパンダが 3 匹もいて、全然動かなかったけれど可愛かったです。また、上海最後の日に見に行った夜景は特に綺麗で印象に残りました。

しかし、授業や友達との寮生活が楽しかった反面、やはり事前に中国語をもっと勉強しておけばよかったと思うこともありました。寮についているエアコンやポットが壊れていた時はどうやって伝えればいいのかわからず、先生を通して修理業者に伝えてもらったり、スーパーで店員さんに話しかけられた時は話がよくわからないまま対や**谢谢**を連発したりしていたので、中国人と話す機会を自分で潰してしまったように感じます。

研修の最初の方は早起きや慣れない環境で生活するのが大変で早く家に帰りたいなと思っていたけれど、ただ中国語を学ぶだけではなく先輩方やアジア学科の人とも仲良くなれたので参加してよかったと思いました。日本に帰ってからはどうしても中国語を使う機会が少なくなってしまうので、留学生との交流会等に積極的に参加していきたいです。



南開大学研修を終えて

文学部アジア文化学科　1年

8月8日から28日の約3週間の中国研修へ参加した。私にとって3週間という期間は初めてだったので少し不安な部分もあった。しかしその不安も、先輩方や友人たちのおかげでとても有意義な3週間となった。一年生ということもあり、中国語もたじたじで、まだ文法なども覚えたてだった。そんな中、プログラムの中に、南開大学生などと触れ合う交流会があったのだ。男女関係なくたくさんの方が来てくださった。私たちは同年代の子のグループと一緒に様々な会話をした。言葉ができない代わりに、ジェスチャーや知っている単語を並べたり、言語の壁を壊すように最善を尽くした。そのおかげで、日本の映画やドラマ、音楽アーティスト、ご飯にお菓子。日本の文化がこんなにも広く知られていることにとても驚いた。大きく話題に出たのは、K-POPだ。お互いの推しを話したり、共感したり、音楽の力のすごさを改めて実感した。

交流会だけでなく観光地にも足をたくさん運んだ。有名な天安門や世界遺産である万里の長城、天壇公園、覆面ショーやパンダの赤ちゃんを観覧し、東方明珠電視塔などたくさんのイベントが詰め込まれていた。絶対に行きたいとしてもなかなかいけないだろうという場所にたくさん行けて貴重な体験をすることができた。

観光そして勉強。とても大変な日程で忙しい3週間を過ごした。普段どのようなご飯を食べるのか、辛いと有名な四川料理を口にしたり、それぞれの地域の料理にも触れたりできた。今では懐かしく感じる。中国というといい顔をする人はそう多くはない。しかし、この研修に行ったことで人の優しさにも触れ合うことができ、地域の環境状況や気温を直で感じることができた。ネットや人の言葉を鵜呑みにするのではなく自分の目で確かめ体験することで怪訝に思っている部分や勘違いしていた感情も変わるのかなと思えた。

中国研修

2019 年 中国研修を終えて
アジア文化学科 1 年

私は８月８日～８月２８日までの中国研修に参加しました。約２週間、中国語を学び、約１週間は中国の街を観光したり、文化や歴史を学びました。毎朝太極拳から始まり、貴重な体験ができたと思います。中国語の授業はとても分かりやすく、楽しい授業でした。最初は不安しかなかったけど、友達や先生のサポートがあり最後まで勉強することができました。南開大学オリジナルの教科書を使って、勉強しました。先生は日本語ができなかったので、中国語と英語で授業を進めました。授業の内容はただ語学を勉強するだけでなく、クイズ形式や友達や先生と会話をすることで語学のレベルが上がったと思います。語学を勉強する際にはどれだけ現地の方と会話をするかが大切だということを学びました。それに気づいてからは、ホテルの方や寮の方に困ったことがあれば、先生に頼らず、自分たちの言葉で説明するように努力しました。一生懸命に話していれば相手の方も最後まで聞いてくれて、問題が起こっても解決することができました。この研修でコミュニケーション能力もついたと思います

中国研修

アジア文化学科 1年

研修で20日間中国に短期留学しました。
最初の2週間くらいは天津の南開大学で中国語の勉強をしていました。毎日、朝早く起きて太極拳をした後、朝食を取って授業でした。午前中の授業が終わると昼食で、しばらく休憩を挟んで午後の授業が始まるという生活をしていました。
間の土日で北京観光をしました。たった2日での観光だったので、少し慌ただしい感じもありましたが、とても楽しかったです。1日目は天安門、天壇に行ったり、雑技を見たりしました。2日目は万里の長城、定陵、頤和園などに行きました。2日間ともたくさん歩いて疲れました。他にも、ラム肉のしゃぶしゃぶや北京ダックを食べました。
南開大学を卒業して、成都に飛びました。初めて食べる四川料理はとても辛くて、しびれるような辛さに驚きました。そして何よりも、大熊繁育研究基地で見たパンダがとても印象的でした。とても可愛くて、初めてパンダを見れて幸せでした。
最後の2日間は上海で観光しました。上海は他のどこよりも気温が高くむしむししていて、とても暑かったです。街がとても発展していて、綺麗でした。そこで数時間ほど自由な時間をもらい、お店を見てまわりました。お土産にできそうな可愛い雑貨屋さんや化粧品屋さん、日本にもあるETUDE HOUSEやFOREVER21などたくさんのお店があって買い物が楽しかったです。最終日の夜に上海タワーに登って見た夜景がとても綺麗で感動しました。
この3週間で、友達と仲良くなれたり中国語がしっかり勉強できたりと、本当に行ってよかったと思いました。

中国・南開大学研修レポート

文学部アジア文化学科 １年

８月８日から２８日までの３週間、中国・天津にある南開大学で研修を行いました。南開大学では２週間ほど語学学習に取り組みました。授業は教科書を基本に進めていきました。その他には習った単語を使い文章を作って発表をしたり、中国語の曲を歌ったり、ジェスチャーゲームなどをしました。毎日のように宿題や発表があり、かなりハードでしたが、分からないことはみんなで教え合い、学びを深めていきました。

３週目には中国の様々な観光地を訪れ、歴史を学びました。四川省では、パンダを見たり、世界文化遺産や中国雑技などを見ました。上海では、買い物をしたり、東方明珠電視塔に行ったりしました。

この研修を通して、中国語を本場の中国で学ぶことができ、今後の中国語を学ぶ意欲が湧きました。語学のほかに文化講座や太極拳や万里の長城に登るなど中国の歴史や文化を感じました。今後できないような貴重な体験をすることができました。

南開大学研修に参加して

アジア文化学科１年

今回、南開大学研修に参加して初めて中国に行きました。２０日間の研修で南開大学での生活、有名な都市での観光を通して、語学の勉強だけでなく中国の文化や生活を実際に体験することができました。

南開大学での生活では、まず大学の広さに驚きました。授業では二つのクラスに分かれ、私は李先生のクラスでした。初めは中国語と英語だけでの授業に戸惑いもありましたが、伝わったときや理解した時はとても嬉しかったです。授業では発表が多くあり発音などとても勉強になりました。授業終わりには宿題が出たり、定期的にテストがあったりと授業外でも勉強することが多くありましたが、毎回自分がどこまで理解できているのか確認することができ、分からないところは李先生が丁寧に教えてくれました。学校では中国語の授業だけでなく太極拳も教わりました。太極拳は実際にすると想像以上に難しかったです。また、学校では勉強だけでなく自分だけのチャイナドレスを作ったり、現地の学生との交流会など、南開大学での生活では貴重な体験をすることができました。

有名な都市での観光では学校がある天津を始め、北京、成都、上海など様々な都市に行くことができました。観光では観光会社の社長さん、通訳をしてくれたこうさんにとてもお世話になりました。観光での思い出はたくさんありますが、中でも万里の長城に登れたことはとても嬉しかったです。万里の長城は一段一段様々な形や大きさの段になっており登るのは大変でした。しかし、上から見る景色は最高で実際に登ってみないと分からないと思いました。また、成都のパンダもとても印象に残っており、実際にパンダを見ることができ、とても可愛かったです。他にも天壇、天安門広場、定陵、豫園など有名な観光地を見ることができ、中国の歴史や文化を学ぶことができました。

今回の研修で中国の言語や文化を学び、実際に生活をすることで様々な経験ができとても勉強になりました。研修を通して実際に行かないと分からないことが多くあるのだと思いました。また、中国で出会った李先生や観光会社の社長さん、こうさん、サポートしてくれた方々にはとても感謝しています。今回の研修で学んだことを活かしてこれからも中国語の勉強頑張ります。

中国・南海大学研修レポート

アジア文化学科 1年

8月8日から２８日の２０日間、私たちは中国・天津にある南海大学に研修に行った。8日の夜に大学に到着し、翌日に開学式とクラス分けテストがあり、中国語の講義も始まった。だが、上級のクラスにクラス分けされてしまい、まだ中国語を習い始めて4か月程しか経っていない私には、中国語で先生が指示を出しているのを理解するのでさえ、ままならない状態で授業を受けた。途中で初級のクラスに変更し、そのクラスでは、前回授業で学んだ単語をジェスチャーゲームで復習をしたりと楽しく授業を受けることができた。

14日の午後から北京に向かい、天安門、故宮博物院、頤和園・天壇に行き、雑技を鑑賞し、北京ダックを食べ、北京を観光した。15日は、万里の長城に行き、そこで中国人の子供や韓国人と交流することができ、楽しかった。そのあとは大学に帰り、16日からは、通常通り、朝から太極拳をし、授業をした。19日には、国際交流会があり、南海大学はもちろん、他の大学からも中国人の方が来てくださり、私は中国が全く喋れなかったので、話ができるか不安だったが、私が仲良くなった方たちは日本語がとても上手だった。好きな韓国のアイドルの話をしたり、日本と中国の食べ物の話をした。22日は、最後の試験と終業式、晩餐会があり、終業式では、一人ずつ修了証書を受け取り、先生と食事をして最後の南海大学での生活をした。23日からは、成都と上海に行き、パンダや南京路、東方明珠塔など様々な場所を見て回った。

この研修を通して、中国語をもっと学びたいとより一層思うようになった。慣れない海外の生活は、正直大変だったが、引率の先生や旅行会社の社長さん、通訳をしてくれた高さんたちのおかげで、毎日楽しく過ごすことができた。この経験を生かしてこれからの生活をしたいと思う。

中国研修レポート

中国での体験

アジア文化学科 1年

私は以前から中国に興味があり、アジア文化学科で中国語を学び、中国への留学を希望している為、その下見も兼ねて今回の中国研修に参加した。

中国研修に行く前は、中国語の授業を選択していても、まだ 4 か月ほどしか中国語を勉強していなく、授業についていくことができるのか心配だった。しかし、南開大学ではまず初めにクラス分けテストを行い自分の中国語能力に合った授業を受けることができた。授業では文法や単語を習うとすぐに自分で文を作り、発表というような流れで進んだため、授業の内容もよく覚えることができた。担任の先生は、日本語は全くできなかったが、簡単な英語や中国語を使って下さった為、授業も簡単に理解することができた。

南開大学での滞在が終わるとき、南開大学の生徒との交流会を開催した。最初、10 人も来てくれないのではないかと不安だったが、教室が埋まるほど来て下さってとても嬉しかった。勇気を出して話しかけ、とても仲良くなることができた。K-pop やジャニーズ、日本や中国のドラマや俳優について話した。連絡先を交換し、日本に戻った今でも交流がある。海外で友達を作ることができて嬉しい。

中国研修では南開大学での授業だけではなく、北京、成都、上海の観光もすることができた。北京では天安門や紫禁城、天壇などに行った。想像以上に人が多くとても疲れた。しかし、今までテレビでしか見たことがなかった所に実際に行くことができて良かった。他にも万里の長城にも登った。途中から足が上がらなくなったが研修に参加したメンバー皆頂上まで行くことができた。成都では三国志の遺跡や峨眉山に行き、そしてパンダを見た。沢山のパンダがいて、赤ちゃんのパンダも見ることができ、とても可愛く癒された。上海では南京路などで買い物をした。上海は他の都市に比べ、ビルなどの現代的な建物が多く「都会」という印象を受けた。中国は都市により受ける印象が全く違い、面白かった。

私は今回の研修で中国語を学ぶだけではなく、中国人の友達を作ることができ、沢山の場所を観光することができた。また、実際に中国に行くことで中国人の生活や習慣を実際に体感することができた。交流会などはただ中国に観光に行くだけでは行うことができないため、研修で中国に行くことができて良かった。沢山の宝物になる思い出を作ることができた。さらに中国の人と中国語で交流ができるように、中国語の勉強を励もうと思う。

南開大学研修

アジア文化学科 1年

私は 8/8～8/28 日の間中国へ研修に行きました。参加しようと決めたきっかけは、指定校推薦の面接の際私がこの大学で中国を学びたいと話すと面接官だった崔先生が、この研修を進めてくださったのが大きなきっかけです。私自身アジア圏の国に行くのは初めてで、正直行く前の私は不安な気持ちでいっぱいでした。ですが実際現地に着くと旅行会社の社長様や、南開大学の在校生のコウさん、そして引率の先生方が多くのサポートをしてくださり大変有意義な 3 週間となりました。中国語の勉強はもちろんですが、実際に楽器を演奏する体験や実際に観光地に訪れ歴史などを楽しく学ぶことができました。中でも思い出に残っている 2 つを紹介します。

一つ目はチャイナドレスを作ってもらったことです。このチャイナドレスは生地の柄から形までを自分で選び、寸法もお店の方が測り自分にぴったりのチャイナドレスを作ってくださいます。そして何より私が一番驚いたのはそのチャイナドレスはすべて手作業で作っているということです。お店の方は学生一人一人のチャイナドレスをとても丁寧に作ってくださいました。それを着て南開大学の学生たちとの交流会をしましたが、学生の皆さんはチャイナドレスをとても素敵と皆さん褒めてくださいました。

二つ目は万里の長城に行ったことです。万里の長城は「世界 7 大奇跡」の 1 つで、中国観光のハイライトです。万里の長城は 1987 年世界文化遺産に登録されています。万里の長城は紀元前 7 世紀の春秋時代から明代まで、約 2000 年以上に亘り、造成を重ねてきました。現存するものの大部分は、明代の建造で、総延長約 6000 キロの世界最大の城壁です。衛星写真でもはっきりと見ることができます。万里の長城を登るルートとして、比較的登りやすい「女坂」と、斜面がとても急な「男坂」があります。どちらも階段を使って登るのですが、男坂のほうは急すぎて私たちでは登ることができないほどでした。小さいころから行ってみたかった場所の一つに行くことができて本当にうれしかったです。

この研修では中国に長期で留学に行きたいと考えている私にはいい経験になりましたし、多くの刺激を受けて帰国することができました。このような機会をいただけて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

南開大学夏期語学研修レポート

アジア文化学科 1年

この研修では、中国の天津市にある南開大学で中国語の集中講義を受けたり、世界遺産を自分の目でみたりすることができました。私はこの研修を通して、多くの人と関わり、多くの経験ができたと思っています。中国語を学び始めてまだ 3 か月ほどしか経っていなかったけれど、講義は中国語初級の授業と同じくらいのレベルのクラスだったので、日本で習ってきたことの復習といった感じで私のレベルに合った授業を受けることができたと思います。クラスを担当してくださった李先生は、無償で用意してくださった教材を用いながら丁寧に授業をしてくださいました。私たち生徒に中国語での説明が伝わらない時は、英語で説明してくださいました。講義の最終日に向けて小テストが行われたり、楽しく学ぶことができるようにゲームをしたりもしました。私は講義を受ける上で、よく理解できなかったところは友達に教えてもらい、その日に習ったことが曖昧なままにならないように気をつけていました。また、寮のテレビでみたドラマの気になったフレーズを先生に教えてもらいにいくということもしました。講義とは別に南開大学で国際交流会も行われました。現地の大学生は夏休みにも関わらず、多くの学生がこの会に参加してくれました。同世代の中国人と話をする機会は貴重だったので、話も弾み、とても楽しかったです。この出会いを大切にしたいと思いました。このようにして、この研修期間は、教室用語に限らず、生活用語も覚えることができたと思います。

週末や研修の後半には中国の歴史について学ぶことができました。訪れたすべての観光地や世界文化遺産は日本では考えることのできない規模で、さすが中国だなと思いました。私はその中でも四川省の成都市にある都江堰という水利施設が印象に残りました。2300 年という長い歴史を持つこの施設は、今でも使えるもので成都の人々が暮らしていくのに必要な水を引く重要な施設となっています。私はガイドさんのお話を聞きながら、昔の人の知恵はすごいなと思いました。日本でも昔の人の知恵や工夫に驚かされることは多くありますが、それは日本に限らず中国でも、また他のどんな国でもあることだと身をもって知ることができました。

この研修の準備やサポートをしてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも中国語の勉強に励み、異なる文化の人々を受け入れる心を持ち続けていきたいと思いました。

2019 年度　南開大学夏季語学研修を終えて

アジア文化学科 1 年

私は、8 月 8 日から 8 月 28 日の約 20 日間、南開大学夏季語学研修に参加しました。語学はもちろんのこと、中国の文化や価値観、沢山の人との出会いを直に体験することが出来ました。3 週間という短い期間でしたが、生まれて初めて親元を離れ、異国の地で生活したことは、自分自身、人として成長できたと思います。

研修では、主に中国語の基礎を学びました。李先生というとても気さくな先生で、あまりにも未熟な中国語レベルの私たちと、日本語が全く話せない先生との授業で、お互いに思いが通じなかったらジェスチャーや英訳をして全力でぶつかって分かり合う授業をしました。日本ではこのように先生と生徒が本気でぶつかり合う授業ではないので、本当に難しかったけど、本当に楽しい授業でした。日本にいたときは、いかに自分が授業を受け身でやっていたのが中国に来てよく感じました。

授業以外にも、南開大学内で日本とは大きく違うと特に感じたことがありました。それは、大学内が本当に広くて、大学の外に行かなくても生活できるという点です。南開大学内の環境が日本人の私にはとても新鮮で、毎日が楽しかったです。研修中、授業がない日に大学内を散策したことがあり、筑女にはない陸上競技場や水泳場、外にバスケットコートやバレーコートなど大学内全ての人が交流しあえる場が多く存在している環境を見て、本当に羨ましく感じました。このようなことを知るのも実際に中国に行かないと知ることが出来なかったことなので、中国に来てよかったと思いました。

そのほかにも、北京、天津、成都、上海と 3 週間でこんなにも多くの場所に行くことが出来ました。研修じゃないとここまで多くの場所に行くことはまずできないと思うし、この研修でずっとサポートとガイドを務めてもらったコウさんとツアーガイドの社長さんがいなかったら、ここまで良い観光ができなかったと思います。北京では、私が観光した中で一番印象に残っている万里の長城に行きました。一生行くことのない場所だと思っていたので、実際にこの目で見ることができて本当に感激しました。思った以上に急な場所もあってきつかったですが、最後まで登り切ったのも一生忘れることのない思い出です。また、大学もあった天津では、食品街や文化街と現地の人の生活を身近で体感することが出来ましたし、飛行機に乗って行った成都では、北京・天津とは全く雰囲気が違う場所で驚きました。気候がそもそも違うし、特に辛い食べ物が多かったです。これも中国がいかに広大な国であるかということを体感することが出来ました。

今回の研修で初めて話した同級生や先輩方とも仲良くさせていただき、研修を終えた今でも交流があります。崔先生をはじめ、須藤先生、支えてくださった家族に感謝し、この研修を生かした大学生活を送っていきたいと思います。

中国研修

20日間の旅

アジア文化学科 1年

前期の授業とテストが終わりやっと私に夏休みが来るともおもっていた８月の上旬。私の夏休みは２０日間の中国研修から始まった。今回の研修で飛行機に５回ものった。たった２０日間で５回も乗れたことは、とても嬉しい。本当にいい体験ができたと思う。まず福岡から北京に行き、そこでコウさんと社長さん方と会った。夜２４時を過ぎたころ南開大学についた。寮に部屋は４階でそこまでキャリーバッグを運ぶのはとても大変だった。こういった流れであっという間に中国に着き、初日から大変だった今回の研修で、中国に行く前の私に比べ中国語力や自分自身のコミュニケーション力が向上した。しかし、日本に帰ってきた現在では、まだまだ私自身の語彙力といった問題点が浮上している。今回の研修でどういった勉強方法をおこなって語彙力が伸びたのか、また問題点をどう対策して解決していくかを着目して述べようと思う。

南開大学の寮では１３泊した。そのうち朝の７：００（６：５０）～７：３０過ぎまで太極拳がある。その後朝ご飯を食べ８：３０から昼まで授業を行い、一日授業の日は昼休みを挟みまた昼から３時まで授業だ。一日授業のときは約６時間勉強をする。午前中だけの授業だと３時間３０分で、私のクラスの先生は李先生だ。李先生は英語も話せる方だった。私は英語が大の苦手でそれに中国語も分からない。もちろん李先生は中国語で話されて、意味が通じなかったら英語で話されていた。みんなは英語ができていたため意味が通じて授業中おっしゃっていたことが分かっていた。それに対して、私にそれが不可能だったため皆よりそこから遅れていた。だが、その分ホームワークがでていたためそれを自分なりにピンインを書いたりして頑張った。また授業中も隣の友達を頼りながら勉強に励んだ。また、南開大学やほかの大学の日本語を勉強している学生さんたちと交流をした。その際、たくさん自分の国の話や趣味の話をした。中国の方々は日本を話せるため私が中国語を話せなくても会話をすることができた。

今回の研修で、１３日勉強し残りは観光をして２０日。中国語にずっと触れていたことで自分が思っていたより中国語の語彙力がスキルアップできたとおもう。だが、今の世の中は英語が世界共通語と言われている。私はそんな英語が話せないため中国語とともに英語も勉強しないといけないなと実感することができた。また、中国の学生と交流することで、同じ大学生なのにレベルの差を身近に体験することができた。観光にも行って、学生以外の幅広い世代の人々と話す機会があり日本にはない値引きする風習などを自分自身で体験することもできた。これからは、前期よりも中国語に対して関心が湧いてきたため後期の授業は意識を変えてやろうと思う。予習復習をしていなかったが研修にいってするようになった。やはり大事だと思うことができた。続けようと思う。

2019 年度　南開大学夏期語学研修

アジア文化学科 1 年

私は以前から海外留学に興味があり、今年の夏に南開大学で短期留学があると聞き応募することにしました。中国留学に行く前は憧れの海外留学に行けるというワクワクと中国語が話せないのに大丈夫なのかという不安がありました。

初日にクラス分けテストを受け、それぞれ自分のレベルに合ったクラスで授業を受けました。授業は書くばかりではなく先生と習った単語を使って会話したり、ペアやグループで協力して文を作ったり、ミニゲームなどをしてアクティブに学ぶことできました。授業の後半では自分で考えた文を一人ずつ発表できるようになり留学に行く前よりも成長できたと感じました。

中国語の勉強はもちろんですが、テレビでしか見たことのないような多くの歴史的な建物や有名な観光地に行くことができました。特に印象に残っているのは万里の長城です。歴史の授業などでもよく出てきますがその大きさと長さに圧倒されました。万里の長城だけに限らず実際に足を運ぶことでより理解が深まり刺激を受けることができると思いました。

日本から数時間で行けるほど近くにある中国ですが日本と文化や習慣、考え方などが異なっており非常に刺激を受けたし、世界には様々な人がいると異文化について改めて考えさせられました。また、中国語の学習に対してモチベーションが向上し、より一層意欲がわいたと思います。中国語のスキルを上げまた中国に行きたいと思いました。

アジア文化学科 1年

南開大学夏期語学研修レポート

私はこの夏に中国へ研修に行って、日本とは違う様々なことを自分の目で見て体験することが出来ました。そして、実際に行くのとテレビで見るのとは違うことを改めて実感させられました。

南開大学

日本を出発して最初に到着したのは南開大学でした。南開大学での中国語講義は先生が中国人であること、また朝の8時半から3時まで中国語の講義がびっしりあることが筑女で受けている講義と大きく違いました。私たちのクラスの李先生はとても優しくわかりやすく身につく講義をしてくれたので私は毎日楽しく受けることが出来ました。例えば、先生は最初にいくつかの例を挙げそして生徒全員に質問し、発言させます。たまにひねった質問をしたりして生徒に考えさせます。眠たそうな生徒がいたら、ゲームをしてくれます。毎回の授業の始めには前回の授業で出てきた新出単語を使って私たちに文章を作らせます。なので、退屈することもあまりないし単語を忘れることもありません。私は中国語で自己紹介や家族、友達の紹介がどんどん出来るようになっていくのがとても嬉しかったです。李先生にはとても感謝しています。

太極拳はとても難しかったです。太極拳の先生のチョウ先生がやっているのを見ると動きはゆっくりなので見よう見まねで出来そうと思いましたが、実際やってみると全然出来ませんでした。手と足の動きがややこしく、片足で立たないといけないところもあり、すぐによろけてしまいます。先生がやるとてもかっこいいのに自分がやるとどこか違いました。最終的にも先生のようには出来るようにはなれませんでしたが先生の下で貴重な体験ができ、とても良かったです。

北京

北京では多くの場所に行きました。天安門広場や故宮博物館、定陵、万里の長城へ行ったり、雑技を見たり、北京ダックを食べたりしました。中国の歴史はとても長く深く場所一つ一つに圧倒されました。天安門広場と故宮博物館はとてつもなく広くて歩くのが疲れたのをよく覚えています。しかし、中国独特の風情のある建物はかっこよく、見ていて全然飽きませんでした。定陵はとても大きなお墓で、中には2人の皇后のものが入っていました。地下だったのですが、とても涼しく外はとっても暑かったのでクールダウンすることが出来ました。また、人の多さに驚きました。どこへ行っても人が多く、車やバス、バイクの数にもとても驚きました。ここがまさに日本と違うところであり、中国の雰囲気がとてもわかりました。雑技は日本にない技ばかりで人間がしているとは思えませんでした。失敗すると死んでしまいそうな技ばかりだったので、思わず何度も悲鳴が出てしまいました。またもう一回見たいと思いました。北京ダックは初めて食べたのですが、巻いて食べる生地とソースみたいなものが相性抜群でとても美味しかったです。高級料理なので、食べることが出来てとても幸せでした。

成都・上海

成都では三国志巡りとパンダを見に行きました。三国志巡りでは三国志に出てくる人物の大きな人形があり、すごい迫力でした。人物1人1人に日本語の説明文がついていたのですが、時間の関係上ゆっくり読めなかったので、次行く時にしっかり読みたいです。諸葛孔明の扇子が売っており、頭が良くなりたい中国の学生はみんな買うと聞いて私もとても欲しくなりました。パンダは私は生まれて初めて見たのですが、とっても可愛かったです。しかし、みんななかなか人の方を向いてくれないので、写真を取るのに苦戦しました。

上海では上海タワーなどに行きました。上海タワーから見た夜景はとっても綺麗でした。私は長崎にある日本三大夜景の一つを見に行ったことがあるのですが、その何倍も綺麗でした。どこの角度から撮っても綺麗なので自由時間がとても短く感じました。

最後に今回の研修でお世話になった先生方、ガイドさん、旅行会社の社長さんに感謝します。

中国南開研修について

アジア文化学科 1年

南開研修での授業のプログラムとして最初に二週間ほどの授業を受けました。そこでは今回参加した筑紫女学園大学の日本人留学生だけの授業だったのですが、先生は中国人だったので中国語とわずかな英語だけを使った授業となりました。私は日本で約四ヶ月間学んだ拙い中国語しかまだ知らなかったので授業が始まったときはこの先どうなっていくのかが不安でした。しかし、私たちのクラスの先生は最初のあいさつから私たち一人ひとりに目を向けてくださって、親しみやすい雰囲気だったのでクラスの緊張した雰囲気は次第に消え去っていきました。三日目以降の授業では本格的に中国語を学ぶこととなりました。先生は中国語を教える際には先生が言った言葉を私たちが一人ずつ繰り返していくというものでした。私たちはぼんやりとする暇もないほど授業の中で外国語を喋ったり必死に聞き取ったりしていました。授業の中でこれほど多くを発言したのは初めてでしたが、私たち日本人がやりがちな書く作業よりもはるかに頭や耳に残っていて感動や驚きが隠せませんでした。語学を学ぶ際には書くこともちろん大事だとは思いますが、ひたすら口に出して学ぶ方がはるかに楽しくて効率が良いように思いました。

南開大学でのもう一つの思い出は南開大学生との交流会です。私たちは研修生として招かれているので前日に会場の設営やお菓子やジュースの準備をしました。飲食類をたくさん用意していたのですが、学生の方たちがどれだけの人数が来てくれるかは前日まで知らされておらず大体の見当もつきませんでした。ですが、夏休み中なのにもかかわらず私たち研修生約 30 人を倍にしたくらいの人数が来てくださってにぎやかな会となりました。南開大学生の皆さんは私服で来られていましたが、私たちは研修に来て間もない日に各自で選んだチャイナドレスを着ての参加となりました。会が始まると研修生と南開大学生が隣同士になるように並んで座り、あるゲームをしました。そのゲームとは、音楽がかかっている間に羽子板用の羽根のようなものを回していき、止まった時に持っていた人が自己紹介をするというものでした。日本人も中国語で自己紹介をしなければならなかったので事前に練習してきた自己紹介の文を言っていました。南開大学生の方がたくさん来てくれていたので研修生にはあまり当たりませんでした。ゲームが終わると、ばらばらになってお菓子やジュースを飲みながら楽しく南開大学生の方たちとお話ししました。私が話した方は英語と日本語を勉強し、通訳になる夢を持っていました。南開大学は頭がよくて有名なところだと聞いていて、私が話した方も私が間違えて日本語で話してしまっても聞き取れていてすごいと思いました。また、日本のアニメや漫画が好きな学生が多く私もアニメが好きなので楽しい交流会となりました。

この研修は私にとって思い出深く、たくさんの発見があった貴重な経験となりました。

アジア文化学科 1 年

南開大学夏期語学研修

私は、8 月 8 日から 8 月 28 日にかけて中国の南開大学夏期語学研修に参加した。私が今回の語学研修に参加した理由は大きく 2 つある。1 つ目に、南開大学でしか受けることができない中国語の授業を受けてみたかったため。2 つ目に、授業だけでなく実際に自分の足で中国に行き中国の文化に触れてみたいという理由である。

南開大学では、開学式の後にクラス分けテストがあった。テストの結果により 2 つのクラスに分かれ、私は 1 年生が 2 人しかいない上級クラスで授業を受けた。筑女大で中国語の講義を受けていたが、数か月ほどであるため南開大学で受ける授業は難易度が高かった。授業は中国語と英語で進められる。そして、文法を学ぶと 2 人 1 組になり習った文法から会話を自分たちで考え発表する形式である。リスニング問題が 1 度で聞き取れず、難しいように思った。授業以外では、中国の他の大学の学生と交流である異文化交流会があった。ゲームや自由に会話する時間を通して、文化や食べ物、流行や有名な人物を知り、国を超えて交流することができた

中国の都市では、天津、北京、成都、上海を見学した。その中でも北京が 1 番印象に残っている。北京では、中国を代表する天安門広場に行ったり、万里の長城に登ったり、北京ダックを食べた。万里の長城は傾斜が急な男坂と女坂があり、研修に参加したメンバー全員女坂を登った。階段の数が多く、女坂ですら傾斜が急であったが、予定の時間より早く登りきることができた。万里の長城は人生で 1 度は行ってみたかった場所であったので、登り切り頂上の景色を見ることができたことはとても思い出になった。

はじめにも述べたように、大学に入り中国語を学ぶ中で中国の文化や歴史についても知る必要があると思っていた。そのため、この語学研修を通して中国語を学ぶだけでなく、天津、北京、成都、上海のそれぞれの都市での建造物や市街地の見学を通して触れることができて良かった。研修ではとてもではないが自分の勉強不足を痛感したので、さらに中国語を磨いていきたいと思った。約 3 週間の期間で初の海外ということもあり非常に不安だったが、勇気を出して語学研修に参加して本当に良かったと思っている。

南開大学短期留学に行って

アジア文化学科 1年

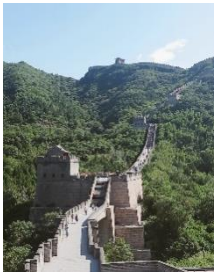
私は、夏休みに中国に約3週間の短期留学に行きました。海外に行った経験はとても小さな頃に一度のみで覚えていない出来事なので、私にとっては初めてのことでした。行く前は中国での3週間もの滞在に不安がいっぱいでしたが、実際に行ってみると日本で心配していたことが拍子抜けするくらいでとても楽しかったです。

今回短期留学に行った理由は、当たり前に中国語が話されているところに行って学ぶことで少しでも中国語に慣れ、中国語を話せるようになりたいと考えたからです。私は、中国語を習得したいという気持ちがあり、アジア文化学科に入学したので、この中国への短期留学はとてもいい機会だと思いました。さらに、隔年実施ということもあり、まだまだ中国語を学んで間もないけれど今年行くことにしました。

行きの飛行機は3時間と長く、行ったことのない中国が待ち遠しかったです。当初は3時間の移動を長いと感じていましたが、短期留学中に何度も長時間の移動をするうちに3時間の移動を長いと感じなくなりました。

南開大学には約2週間滞在しました。主に朝に太極拳を習い、午前午後に中国語を学びました。先生は中国の方で授業は中国語で進められました。最初はなにを言われているのかまったくわかりませんでしたが、英語で少しヒントをいただいたり、ジェスチャーゲームなどをして学んでいるとだんだん中国語に慣れていき、滞在していた最後の方では理解できるようになりました。私は中国語の会話をする発表でよく先生と組ませていただき、緊張しましたが、とても身になりました。

大学での食事は朝は中華のバイキング、昼と夜は中華テーブルに中華料理が運ばれてききたものを食べました。やはり日本での中華料理は日本人向けにアレンジされていることを実感しました。山椒がとても効いているものやすごく辛い料理、甘いご飯など独特な料理が多く、慣れることができずあまり食べることができませんでした。好きな料理もあったのですが料理名がわからないためとても残念です。四川料理も食べたのですが、本当にとても辛く私は辛い料理が得意ではないため、数口食べる毎に飲み物を飲んでいました。いつもご飯が入っている皿が四川では桶に入っており、四川独特の文化だと聞きました。



観光では伝統的な建築を見に行ったり天安門や万里の長城にも行けてとても楽しかったです。雑技団の雑技も素晴らしかったです。パンダにも会えて本当にいることに驚きました。暑い中たくさん歩くことが多かったので健康管理が大変でした。

3週間はとてもあっという間でとても貴重な経験をたくさんできとてもよかったです。

アジア文化学科 1年

汉语言文化学院での授業

私は、海外には行ったことがありましたが、今回3週間という期間日本を離れての研修だったので、はじめ不安で仕方がありませんでした。しかし、3週間でいろんな経験ができて研修に参加した甲斐がありました。

今回の研修で私が特に印象に残ったことは、研修のメインでもある中国語の授業です。最初にクラス分けテストがあり私は、2、3年生が受ける上級クラスに入ることになりました。正直やっていけるか不安で、まだ中国語を習って半年も経つか経たないかの私がこのクラスに入っていいのかと思ってしまいました。しかし、授業を受けてみると難しいところもありましたが、やって行けそうだと思い授業を受けました。

授業は、中国語と英語のみで進められ、言文化学院独自の教科書を使いました。英語が苦手な私にとって同時に2か国語も勉強ができたと思っています。ただ、書いて読んで覚えるのではなくて、文法などを習うたびにペアになりその単元で出た文法を使って自分たちで考えた会話を発表するということを行いました。なかなか会話を作るのが難しくて、先生からのアドバイスをもらいながらも苦戦していました。こうやって授業を受けたので、習ったことを覚えることができました。最後の修了テストでは、授業で習ったことを思い出して解くことができてこの研修に参加してよかったなと思いました。

また、1日だけ南開大学の学生と交流する機会がありました。交流会には、オーダーメイドのチャイナ服を着て参加しました。まず、音楽をかけながら小物を回して、音楽が止まったところの人が自己紹介をするというゲームをしました。私も1回当たって、中国語で自己紹介をしました。そのあと学生さんと交流をして、私は、天津出身という男子学生さんと話しました。日本の漫画やアニメが好きということでした。他の学生さんの中には、ジャニーズが好きという方や、日本の俳優さんが好きという方など日本に興味がある方が多かったです。

今回研修に参加して、中国に滞在したときは、きついなと思う部分もありましたが、いざ日本に帰国するととても貴重な経験だったなと思います。日本で、座学で語学を学ぶよりも実際に行ってみたほうが身についたなと実感しています。先生たちが「実際に現地に行って学んだほうが身につく」ということがよくわかりました。

この3週間で得た経験をこれからの学生生活に活かしていきたいです。さらに、中国語の語学力も上げることができるように授業での小テストや、検定に向けて日々頑張っていきたいです。